

# 事業報告書

(平成 25 年 3 月 21 日現在)

財団法人 北陸私鉄バス労働会館

当財団法人「北陸私鉄バス労働会館」は北陸地方の私鉄バス産業に働く労働者をはじめ、石川県下の産業ならびに労働に関する知識の啓発・福祉・教養の向上に努めてまいりました。

ツアーバスの悲惨な事故が起きましてもまだ、安価なツアーバスが増便の一途をたどり、高速路線バスの乗車率の落ち込みも激しく、路線バス乗客数に至っても免許所得率の高い高齢者、又学生数も年々減りつづけ厳しい現状となっております。

それに伴い、路線減少し北陸 4 県の私鉄バス産業にての若年層の労働者数が毎年減少となっております。

又、会館運営に至りましても、屋外広告は昨年度と比べまして 45 万の減少となっており、一般貸し出しにつきましても、(裁判の総括など)の利用金額は 25 万円の増益ですが、会館運営は、依然厳しい状況は変わりありません。

収入の方ですが、今年度は昨年度より、20,5 万円の減収となっております。

支出の方は、経費節減に努めましたが、会館老朽化による屋上防水工事、会議用机購入により、前年度より 276.6 万円多くなり、正味財産の増減で、前年度より上記の固定資産が増えたため、676.522 円多くなっております。負債及び正味財産合計は 1,480,717 円の減となっております。

また会館自体の老朽化など今後の修繕などを考えますと、更に努力が必要となります。

今後も当会館としての使命を果たしながら健全な事業として継続するための努力を重ねていきたいと考えております。

1. 会館運営にあたり、老朽化による修繕など極力経費節減に努めてまいりま

した。今期は臨時修繕（屋上防水工事・会議用机）で固定資産が増えております。さらに一階テナントの入居募集にあたって来ましたが、まだ入居には至っておらず、継続的に募集していくつもりです。また東日本大震災を契機とする電力供給不足や省エネルギー対策一環として、室内温度を夏は高め（28度）クールビズを実践し、冬は低め（20度）に設定、周知に啓蒙し、環境問題に取り組んでまいりました。

2. 青年女性部員に活動教育として、6回講座を実施いたしました。又活動家労働講座として1回 合計7回開催し、労働運動や公共交通の必要性、今後の活動の基礎を教育してきました。

開催日	講座名	講師名	参加人数
平成 24 年 4 月 20 日（金）	労働組合とは 分散会「組合と青年女性活」	北陸地連坂本書記長	30 名
平成 24 年 7 月 11 日（水）	志賀原発訴訟について	北野進珠洲市議会議員	24 名
平成 24 年 9 月 14 日（金）	中級労働講座（職場リーダ-的存在について）	北陸会館理事 窪田正尚	28 名
平成 24 年 11 月 16 日（金）	制度政策要求の実現にむけて	北陸地連坂本書記長	25 名
平成 24 年 12 月 12 日（水）	ツアーバス問題について	北陸鉄道労組 窪田正尚自動車部長	25 名
平成 25 年 1 月 24 日（木）	青年女性に必要なこと～13 春闘方針～ 分散会 青年女性部の必要性	佐藤 繁則 私鉄総連職員	45 名
平成 25 年 2 月 13 日（水）	労働運動と政治活動 夜間長距離運行する貸切バスにおける交替運転者配置基準について 自民党政権復帰後の政治の行方 13 年春闘情勢	陸運技術専門官 勝見栄一・大北忠告  前衆議院議員 近藤和也  北陸会館理事長 南高広	55 名

3. 石川県勤労者体育協会に 10 万円寄付し、労働者の福利厚生に寄与致しました。